

令和7年度 第1回神戸市いじめ問題審議委員会

日時 令和7年12月9日(火) 10:00~
場所 神戸市総合教育センター601号室

次 第

1 開 会

2 報 告

(1) 児童生徒の生徒指導上の諸課題に関する状況について

3 協 議

(1) 神戸市いじめ対応について

(2) その他

4 閉 会

令和7年度 第1回神戸市いじめ問題審議委員会 議事要旨

令和7年12月9日 10:00～12:00
神戸市総合教育センター 601号室

1. 開会

- ・神戸市いじめ問題審議委員会（以下：審議会）委員6名が参加、審議委員会規則に基づき本審議会が成立したことを確認
- ・審議会委員長と副委員長の決定と挨拶
委員長：金山 健一 教授（神戸親和大学 教育学部 教育学科）
副委員長：秋山 麗子 教授（神戸松蔭大学 教育学部 教育学科）
※委員長は、審議会委員の互選により選任。副委員長は、委員長の指名により選任。

2. 報告

（1）児童生徒の生徒指導上の諸課題に関する状況について

【事務局からの報告】

- ・神戸市のいじめ認知件数は増加しているが、積極的認知、早期発見、早期対応の結果と捉えている。
- ・いじめ発見の端緒について、全国と比べ、教職員、保護者が多い。日頃より教職員が保護者と連携している結果と認識している。
- ・いじめが発見されたときの対応について、全国と比べ、家庭訪問の実施が多い。引き続き保護者と連携し、対応してまいりたい。
- ・いじめ対応について、教育相談窓口の周知、地域の方々との連携等について、取り組みの見直しを図った。

【審議会による意見等】

- ・いじめの態様について、神戸市は目に見えるいじめの認知件数が多い。潜在的ないじめがないか確認が必要である。また、「いやなことや恥ずかしいこと」にはわいせつ事案も含まれており、全体に占める割合が高くなっていると考えるため、今後、未然防止の対応が必要である。
- ・神戸市は全国と比べ、家庭訪問の件数が多い。家庭訪問が多いことは肯定的に捉えるべきことであるが、担任教員のみの負担にならないよう組織的に対応してもらいたい。
- ・いじめアンケートについては、紙で実施しているが、児童生徒が回答しやすいよう、システム化も含めて検討していく必要がある。また、いじめアンケートに校長のメッセージや、児童生徒のメッセージなどを記載することもいじめ防止に繋がっていくのではないか。
- ・いじめ重大事態の発生件数が多いことは課題であり、引き続き、未然防止に注力していく必要がある。

----- 審議委員会規則に基づき以下非公開 -----

3. 協議

（1）神戸市いじめ対応について

（2）その他

4. 閉会